

茨城県立水戸第三高等学校同窓会

あおい会だより

第20号

発行所
〒310-0011 水戸市三の丸2-7-27
茨城県立水戸第三高等学校
同窓会 あおい会
TEL 029-224-2044
FAX 029-225-4524
URL <http://www.mito3-h.ed.jp/>
事務局 Eメール aoikai@mito3-h.ed.jp
印刷所 株式会社 きど印刷所



あおい会会長 加藤 正子(葵沼)
(昭34・芸)

90年の歩み

新緑の候、あおい会会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。今年も306名の卒業生を、新しく正会員としてお迎えすることが出来ました。お仲間がふえ、大変嬉しく思います。

さて、本校は大正十五年に「水戸市立高等女学校」として竹隈小学校の一角に誕生いたしました。九十年前のことです。その後、5年の年を経て今の水戸市立第三中学校の地、旧校歌にも歌われている「朝日の森」へ新築移転するのです。当時の制服は、和服、袴姿で葵の葉をデザインしたバックルにモスグリーンベルトをしめていました。下市地区をこの様な姿

をした少女達が行きかっていたのはとても画期的ではなかったでしょうか。やがて幾多の困難を乗り越えて現在の場所に落ち着くことになりました。

昭和三十年、創立30周年のおり成瀬会長を中心に、第一回の「同窓会あおい会」が立ち上げられ石井会長、秋山会長と受けついでまわりました。60年の長きに渡り続いてこられたのも、母校を愛し、いつまでも懐かしく思う一人一人の気持ちが本当のものであったからだと思います。

今、学校は5年前の震災のきずの修復もすっかり終わり、三の丸小学校や弘道館に続く「歴史ロ

下」に合わせ、校舎も白一色となり、古城趾の校内では、セーラー服の少女達が先生や先輩達の教えを守り、昔と変わりなく勉学に部活動にと一生懸命励んでいるようです。

さて、あおい会同窓会では、学校創立90周年と同窓会60周年を記念して我が校の新旧校歌をこのたびCD化しました。一つには、保存をかねて(特に旧校歌は忘れられてしまっておそれがあるため。)そしてもう一つの目的は、卒業までに二つの校歌をしつかり覚えてもらうためです。

どうぞ三年間の高校生活の「集大成」の一つとして、しつかり覚え、後々まで歌いつないでいって下さい。そして同窓会に出席した折には、声高らかに一緒に歌いまししょう。



ごあいさつ
学校長 森 田 浩 一

このたびの定期異動により、齋藤文夫校長の後任として県立中央高等学校から着任いたしました。本校は、今年90周年を迎えます。校訓である「叡智・清純・自強」のもとに培った伝統と校風を継承し、本校の更なる充実と発展のため、微力ながら全力で務めさせていただきますので、よろしくお願

いいたします。

また、日頃から、あおい会会長加藤正子様をはじめ会員の皆様には、本校の教育振興のために、格別のご支援とご協力を賜りまして、心から御礼申し上げます。

さて、本年度も入学式において、普通科24名、家政科40名、音楽科16名(内男子4名)を新入生として迎え、女子生徒88名、男子生徒12名の総勢89名でスタートを切ったところであります。創立90周年に向け昨年度から、目指しております学校像「豊かな教養に充ち、心身ともに健やかで主体的に社会的に貢献できる人材の育成」にさらに磨きをかけるため、新たな取

り組みに着手したところであり、具体的には、学業プラスワンを目標として、規範意識の向上と高いレベルにおける基本的生活習慣の確立や部活動と学習の両立を図った充実した高校生活の推進。これからの時代を生きるために必要とされる資質・能力の基礎となる、学力の定着化、家政科や音楽科の特色化を推進してまいります。

本校の現状と課題を分析し、本校がかつて成果を上げてきた取り組みや学校教育を取り巻く社会の変化や生徒の多様化等により求められる対応などを検証し、できることから実現させていきたいと考えております。

あおい会におかれましては本校90周年に向け、今後とも、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、あおい会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

2015年同窓会 あおい会・総会・懇親会

会場 大洗シーサイドホテル (7月5日、日)

同窓会「あおい会」総会報告

常任・当番幹事 小貫 昭45・普
早苗 (磯崎)



平成27年
度 あおい
会総会・懇
親会は、太
平洋を一望

する、大洗シーサイドホテルに於いて開催されました。当日は、あいにくの雨模様ではありましたが、107名の会員及び現旧職員の方にお集まりいただき事ができました。

同窓会は、岡本事務局長の司会進行、常任・当番幹事の大山さんの開会のことばで幕が開きました。

次に加藤会長、齋藤校長先生挨拶、来賓紹介、来賓代表の栗田ヨシ子先生にご挨拶をいただきました。

総会に入り、常任幹事の大神さんが議長に選出され、スムーズな議事進行で

全ての議事が可決されました。

続いて懇親会に入り、旧職員の木村富也先生の乾杯の音頭で一気に気分が盛り上がり、各テーブルごとに話の輪が広がり、とても、なごやかな雰囲気になりました。穏やかな海を背景に丹精こめて造られたお料理の品々を美味しく味わいながら、更にもなめらかに、笑顔が絶えない、ひとときでした。お腹が満たされた頃余興へ、「現在の水戸三高とその周辺」のテーマで映像とナレーションで紹介、ナレーションは、当番幹事の川名浩子、木野内喜久恵、高木純子さんの方々の美声で映像に一段と輝きと味わい深さを加えてくれました。会場のあちらこちらから、あまりの変わりように驚きと歓喜の声が入り混り、時代の流れとそれぞれの時の懐かしさを思い出しているようでした。

宮田桜子先生のピアノ伴奏、木野内さんの指揮で「夏は来ぬ」「花は咲く」を合唱し、最後に市立高等女学校・現校歌を合唱して、当番幹事の大武恵子さんの閉会のことばで散会となりました。

今年、学校創立90周年と同窓会あおい会60周年を記念する節目の年です。また、健康で、水戸の会場でお会いしましょう。



栗田ヨシ子先生



校長齋藤文夫先生のご挨拶



当番幹事による映像での学校説明



顧問石井千代乃さんを囲んで



当番幹事による余興



毎年参加されている昭和31年卒業生

恩師 特別寄稿

私の履歴書

岩淵 仁(体育)



根駅伝の選手を目指しつつも、故障や怪我のないトレーニングに励みました。3年かかりましたが46年、47年に箱根駅伝を走り優勝することが出来ました。

47年4月に49年の茨城国体のために本県に招かれ水戸第一中学校、翌年の48年4月から水戸第三高校に赴任し、10年間国体に出場し5回優勝し、アジア大会(銅メダル)8カ国陸上(銀メダル)等で日の丸を背負う選手にもなることが出来ました。今注目されている公務員ランナー川内選手と同じことをしていました。彼もそうだと思いますが、職場の理解があつての成績です。本当に感謝していただきます。33歳まで走らせていただきました。毎週末には、あの瀬古利彦選手の名伯楽の中村清監督に10年間教えを受け、指導者としての道も学びました。選手としての引退後は、教員(コーチ)として、

来ました。

38歳で、お世話になった多くの方々の反対を押し切り退職して実業団の監督を10年間勤めました。そこでは多くの選手が怪我や故障に苦しみ、わたし自身も多くの悩みを経験しました。怪我や故障の原因は実業団特有のプレッシャーと過度なトレーニングでした。48歳から東洋と西洋の統合医学を専門学校で学び、ストレスと過度なトレーニングは身体に活性酸素を多量に発生させ細胞を傷つけることがわかりました。選手の怪

我・故障の対策や人の健康のため

の岩淵スポーツ整体院を開業し、58歳で水戸ランナー塾を立ち上げて運動療法(スロージョギング)や生活習慣の改善の指導法の研究を重ねて、インターハイ、国体、全中、都道府県駅伝の選手の育成と、各地のカルチャーセンターの教室で一般の方を対象にした健康講座の講師にもなっています。スロージョギングについて詳しくは、わたしが監修した茨城県メデイカルセンター広報誌「いずみ」2015・1

研究の結果

疲労と故障(病氣)の原因

疲労と故障の原因は、身体の酸化と糖化であると言われていた。酸化は身体が錆びること。過度な運動やストレスにより活性酸素(ヒドロキシラジカル)が発生して組織細胞(臓器、筋肉、血管、神経)の損傷を起こす。糖化は身体が焦げること。過剰に摂取した糖質が体内のたんぱく質と結びつき、体温で熱せられ焦げて筋肉が硬くなる。病氣になりにくい四つの柱 運動(歩く、走る) 食事(栄養、水) 睡眠(デルタ睡眠) ケア(風呂)

結論

疲労回復は、活性酸素を退治して血流を促して体温を上げる こと *今話題の水素水は活性酸素(ヒドロキシラジカル)を抑制します。

わたしがこの道、ランナーの道を志したのは高校時代に岩手県大船渡市の図書館で近代オリンピックの提唱者クーベルタン男爵のことに触れたからです。クーベルタン男爵は、教育者でもあり当時の社会にスポーツを取り入れ教育改革を推進する必要があると考えました。また「スポーツマンは健康で人の模範でなければならぬ」とも言われました。

わたしは、スポーツ医学や生理学を研究して自分と他人の健康に役に立つアスリートになることを決意しました。

それで、わたしは、日本体育大学健康学科に昭和44年入学し、人の健康についての基礎を学び、箱

退後は、教員(コーチ)として、高校生で横須賀久乃、橋本泰子、社会人で照沼由香が、わたしが果たせなかった日本選手権を優勝してくれました。(わたしは7回準優勝) また、多くの素晴らしい生徒にめぐり合い、楽しく充実した14年間の教員生活を送ることが出

来た。 38歳で、お世話になった多くの方々の反対を押し切り退職して実業団の監督を10年間勤めました。そこでは多くの選手が怪我や故障に苦しみ、わたし自身も多くの悩みを経験しました。怪我や故障の原因は実業団特有のプレッシャーと過度なトレーニングでした。48歳から東洋と西洋の統合医学を専門学校で学び、ストレスと過度なトレーニングは身体に活性酸素を多量に発生させ細胞を傷つけることがわかりました。選手の怪



セツケン8番が筆者

45号をお読みください。 今年の10月で68歳、これからは心身ともに健やかさをテーマに身をもって研究に励みます。 おばちゃんになった教え子たちと健やかに過ごすことの大切さを共に学び、健康であることの喜びを噛み締めながら過ごせたら嬉しく思います。

36.5℃ 健康体、免疫力旺盛 36.0℃以下 恒常的に続くこと 排泄機能低下、自律神経失調症、アレルギー症状、体内酸素の働き 鈍化(うつ病)メラトニン不足 35.0℃ がん細胞が最も増殖する温度

36.5℃ 健康体、免疫力旺盛 36.0℃以下 恒常的に続くこと 排泄機能低下、自律神経失調症、アレルギー症状、体内酸素の働き 鈍化(うつ病)メラトニン不足 35.0℃ がん細胞が最も増殖する温度

教師としての原点を育んだ
水戸三高での出会い

友野 悦子(道川)
昭和54年
854号



久々の恩師からの着信に、しばらくお会いして

と思いつつ折り返しの電話をしますと、今回の寄稿のお話でした。

高校時代の思い出と言われ「沢山ありますね！」と笑いがこぼれ「私でよければ」と受けさせて頂きました。

昭和52年。中学校の体育の先生から「三高に陸上のいい先生がいるからどう？」の一言で三高の受験を決め、入学式前から陸上部の練習に参加していました。その頃の私を恩師岩渕仁先生は、「おかしな奴が来た」位に思われていたようです。

当時のグラウンドは、まだ整備されておらず周囲は雑草だらけでした。雑草の中に畑を作り、夏にはとうもろこしの種をまき、合宿でそれをゆでで先輩方と食べるなど、なんともんびりした部活で

した。顧問の岩渕先生は、まだ現役で活躍なされておられ、私達部員と一緒に走って下さいました。千波湖を回る長距離走も、借楽園の中を走るクロスカントリーも一緒に走りました。こうした甲斐もあり、関東大会に出場するまでになり、充実した毎日を送りました。

水戸三高陸上部の土台となる一歩を築いた頃だったと思います。私はK組。担任は阿部敏之先生。科学の先生で、おおらかで温かい先生。何をしても「何とかやるだろう」と大きく構え、見守って下さいました。女子テニス部の顧問で、いつも真っ黒に日に焼けた眼鏡の奥からやさしく笑いかけて下さっておりました。

K組は3年間クラスが替わらず担任もそのまま。阿部先生もよく「お前達と一緒に卒業だな。」とおっしゃって下さっていました。ところが、2年生も終わるとい

3月。事件が起きました。何と阿部先生が転勤されると言うのです。「私達と約束したのに。」その異動は阿部先生の本意ではない。そこが大変でした。K組の生徒はもちろん保護者も巻き込み、校長室へ直談判。

今ではとても考えられませんが、1年間転勤を見送って頂き、無事私達と共に三高を卒業されました。

今でも3年毎にクラス会を開き阿部先生をお招きし、懐かしい顔ぶれと共に高校時代に戻り一時を楽しんでおります。

卒業後は体育大に進学し、現在は中学校の体育教諭として、中学生を相手に楽しい「中学校での生活」を送っております。

私の教師としての原点は、三高時代に関わって下さった先生方の教えにあると思っております。担任の阿部先生はもとより、恩師岩渕仁先生をはじめとした諸先生方。リアルな健康の授業をして下さった野田先生、凛とした雰囲気

で鮮やかななわとびのロープさばきを見せて下さった吉田先生、クマさんのようなほっこりとする風貌の菊田先生、いろいろな被服の製作をさせて下さった鈴木先生。数えればきりが無い程三高の先生方にはお世話になりました。

水戸三高ですこした3年間の思い出は、これからも私の中で輝き続けるものだと思います。

音楽とともに

野尻 潤一郎
昭和43年

「あおい会だより」の原稿掲載依頼をいただいた時から、水戸三高時代の思い出が、ぼんやりと浮かんできました。

昭和40年4月に入学式を迎えたのですが、まったくその時の映像が頭に浮かんできません。おそらく唯一の男子生徒ということでも、自分でも感じられない程の緊張があったのだと思います。

今思えば学校も校長先生方、特に音楽科で担任だった吉水利子先生、そして小方先生など多くの先生方に様々な面でご苦労をおかけしたのではないかと思います。大変お世話になりました。当時音楽科は一学年30名、全学年90名でした。

90分の1の私は、学級の中で過ごす時間が多かったと思います。又、練習室などでヴァイオリンやピアノの練習をすることで、ホッとする時を感じることができました。

音楽大学に入学するために、普通科の高校で勉強するより、ヴァ

イオリンやピアノの指導、専門教科など、より高度な授業が受けられるという父の言葉を、あまり反発もせず受け入れてしまったのが、すべての始まりでした。希望の音楽大学に入学することができ、大変苦労しましたが、無事卒業することができました。卒業後は小・中学校の教員とし



つくばパホールで第九 筆者右端バスでうたう

クラス会だより

あれから50年、そして今

昭42・普
大嶋 ひろ子(檀山)

うら若きセーラー服の乙女だったあの頃に、だんだんと記憶の糸が解かれていく。

私達が卒業式を迎えたのは、三高の木造校舎が放火により焼失したという衝撃的イベントの数日後であった。

卒業後初めてのクラス会、なんと50年が経とうとしていた。

平成28年3月6日(日)場所はテラス・ザ・ガーデン 水戸駅南口のアクセスの良さで決めた。そして「仏滅」の日を敢えて選んだ。

突然のクラス会開催の話が持ち上がったのは、昨年の秋。生徒会長であった北塚さん(旧姓古平)を中心に私を含め七人が世話人となり、クラス会準備を進めた。

まず名簿の整理から着手、そして往復葉書での出欠確認、果して何名の参加者がいるのか危惧したが、当日の参加者は55名中21名であった。残念な事に逝去された方

(確認済)3名、担任の酒泉先生も逝去され、お会い出来る事は叶わなかった。

クラス会開催で問題になったのが、卒業してから50年という歳月、当日、出席者の方の名前と顔が分かるかどうかと言う事であった。

そこで、当日受付で名簿と卒業アルバム顔写真のコピーを配付。名前(旧姓)を書いたシール

を用意し胸に付けてもらうことに

した。各テーブルも名簿順にした。会場でも、まず全員の集合写真を撮る(旧姓長嶋)カメラマンがパ

クリ。50年ぶり第一回クラス会が始まった。

世話人代表として北塚さんからクラス会開催の経緯等を含め挨拶があり、その後会食となった。

自己紹介を兼ねて、近況報告や

高校時代の懐かしい思い出話などで盛り上がった。

いつの間にか、タイムスリップ木造校舎二階の3年1組の教室、セーラー服の皆さん。当時の懐かしい記憶が蘇ってくる。

50年の間には、人それぞれの人生があったと思う。でも今ここに居る皆さん、高校時代のまま、変わっていないよ。そして優しい顔している。

次回は三年後、「古希」を皆でお祝いしようと言う事になった。

「お元気でね。」「またお会いしましょうね。」再会を約束して名残を惜しみながら「あれから50年」第一回三年一組のクラス会を閉会した。

皆の笑顔忘れない。クラス会世



後列左から4番目が筆者

て音楽を生かした活動を38年間送ることができました。

退職後も音楽活動に関わってきたいとの思いがありました。すぐに見つかりました。それは、つくば市主催の年末に開催される、ベートーベンの「交響曲第九番」の合唱団員の募集記事でした。

それは、8月から12月までの25回程の練習に参加しなければなりませんでしたが、月4・5回の練習が生活のリズムを作ってくれました。ドイツ語の歌詞を覚えたり、

バスパートの旋律を覚えたりと充実した日々を過ごすことができました。

第九の合唱も今回で6回目、ちょうど10周年の記念の演奏会でした。何度歌つても心は新鮮な感動に包まれます。オーケストラの

話人代表北塚さん、そして六名の世話人の方々、本当にお疲れ様でした。他県からわざわざ泊りがけで来てくださった皆様、葉書に近況報告を寄せてくれた方、ありがとうございました。

また笑顔でお会い出来る事楽しみにしています。

最後に、水戸三高が創立90周年を迎えること、改めてお祝い申し上げます。

学校の周辺の様子も当時とは大きく変わっていることと想います。歴史的景観が感じられる地域です。

響きの中で、170人の合唱団が心一つに歌い上げる喜びと感動が、今まで続けることができたのだと思います。この年になるまで音楽のすばらしさに関わっていられるのは、音楽の基礎をしっかりと身につけてくれた水戸三高音楽科での3年間の生活が大きな力となっていることは、まちがいのないことだと思っています。

最後に、水戸三高が創立90周年を迎えること、改めてお祝い申し上げます。

学校の周辺の様子も当時とは大きく変わっていることと想います。歴史的景観が感じられる地域です。

すばらしい環境のもと、水戸三高の伝統がいつまでも続くことを願っております。

話人代表北塚さん、そして六名の世話人の方々、本当にお疲れ様でした。他県からわざわざ泊りがけで来てくださった皆様、葉書に近況報告を寄せてくれた方、ありがとうございました。

また笑顔でお会い出来る事楽しみにしています。

最後に、水戸三高が創立90周年を迎えること、改めてお祝い申し上げます。

学校の周辺の様子も当時とは大きく変わっていることと想います。歴史的景観が感じられる地域です。

最後に、水戸三高が創立90周年を迎えること、改めてお祝い申し上げます。

ときのひと

制作する事

山元 規子(石井)



高校卒業後、30年以上の月日が流れ、家庭内のいろいろな雑事の中で、ふと、まわりを見渡すと年齢を重ねても趣味をもち、生き生きと毎日をすごしている人達は、笑顔がステキで、声にもハリがあり、私もあの方達のように老後を送れるようになっていたいと思うようになりしました。その時、たまたま笠間の陶芸教室のことを知り、若い頃から好きで、陶器を集めていたこともあり、思いきって教室に通い始めました。



週1度、2時間の制作時間でしたが、すいづくような土の質感と、

自分で作った器で、料理を盛りつけることに喜びを感じ、楽しくて夢中になりました。帰りには、陶器店めぐりや美術館へ行くなどして充実した日々でした。

その後、夫の定年を機に、本格的に基礎から学ぼうと思いい、京都造形芸術大学の通信課に入学しました。レポート提出、試験など苦労もありましたが、スクーリング時の先生方の熱心な指導、ワークショップ、全国の釜場めぐり、同じ志で入学した友との出会い、全てが新鮮で、若い頃には味わうことのなかった刺激的な4年間をすごしました。

私は今、九州の天草陶石という磁土をつかい、薄くのぼして、卵の殻を幾重にも貼りつけることによつて生まれる形をテーマに、制作しています。これは、09年の卒業作品が土台になっています。

陶芸は、土、制作、乾燥、焼成

三高時代を振り返って

平元・音 定兼 智子(市川)

私は水戸三高を経て東京藝大を卒業後、1995年に全国で唯一の自治体直営のプロオーケストラである京都市交響楽団(京響)にフルート奏者として入団しまし

と段階をふんで作品ができてきますが、焼きあがって窯を開ける時のワクワク感、外気にふれ、一気に冷めはじめると、陶器達のささやくような声が大好きです。その瞬間のために作り続けているような気がします。自分の分身が生まれる達成感と、未熟な作品に対する落胆を味わいながらですが、今は制作する上で、いろいろな葛藤はありますが、公募展に挑戦し、個展を通じて、多くの方に作品を見ていただきたいと思いい、試行錯誤しながらつくり続けています。

あのふと、自分の老後を考えて時、充実した老後にしたいと思つたことで巡り合えた陶芸が、今私の生きがいになっています。



た。

京響は関西でトップクラスの実力と観客動員数を誇るオーケストラで、今年創立60周年を迎えます。

年間公演回数は約100回と多忙ですが、国内外の著名な指揮者やソリストと共に大作曲家の名曲やオペラの数々を演奏する日々は大変充実し、大好きなフルートを吹いて毎日の糧を得られる幸運は、ここまで導き支えて下さった恩師を始め周りの方々のおかげの他ありません。

三高時代の思い出といえば、1分1秒を惜しんで練習に励んだ事でしょうか。もちろん、水戸駅前

のサーティーワンでお友達とおしゃべりしながらアイスクリームを食べた事、学校を早退してサントピアのバーゲン初日にお洋服を買いに行った事(先生ごめんなさい)、「米米クラブ」にお熱をあげて、曲の振り付けを練習してわくわくしながらコンサートに行った事なども忘れがたい思い出です。

あれ? 1分1秒を惜しんで練習...?

何はともあれ、15才〜18才という多感でエネルギーに満ちあふれた時期を、同じ目標を持った仲間や熱心にご指導下さった先生方と過ごせたのは本当に幸せでした。

恩師である大竹先生のフルートの個人レッスンで教えていただいた事はもちろんですが当時音楽科の常勤でいらした故秋山先生、吉成先生、梶先生方から学んだ音楽家としての心がまえや生き様、そして理論や楽典・ソルフェージュの授業で徹底的に仕込まれた音楽の基礎能力はどれだけ今の私の演奏活動を支えてくれている事でしょう。

今私は演奏活動と並行して音大や音楽高校のフルート講師として後進の指導にもあたっております。

生徒達のレッスンをしている思い出すのは自分の恵まれた学生時代の事、生徒に話す言葉は自分が先生方から言われた事ばかり。気がつけば私も当時の先生方と同年代になってしまいました。私が先生方から頂いたものの何分の一かでも、彼ら彼女らに伝えられる事を願ってやみません。

今、三高の周辺は —歴史ロード誕生—

水戸城二の丸角櫓つのやぐらの復元計画と共に「歴史ロード」が整備され、三高を取りまく景観を一変させました。思い出の風景は今いずこ？

北門（通用門）
ここにも立派な門が。
後ろの建物は音楽棟



通称「ベトナム坂」(大杉山)
は歩道がついて石垣が見事



白壁と石垣の道
右、付属小から水戸三高へ
左、水戸二中



柵町坂下門には
韓国・中国・台湾
そして英語で読み方が。



弘道館
震災後すっかり修復され
一般公開されている。



通称「ロマンス坂」
登りの中腹には坂下門
正面に見えるのは体育館



正門から校舎を望む
奥に特別棟、右に体育館



新会員にあおい会会則を説明する常任幹事の軍司史代さん

新会員306名

M	K	6	5	4	3	2	1	組	氏名	氏名
小田	黒澤	阿久津	岡野	助川	片岡	猪狩	中村	組	氏名	氏名
悠	遥	望	暁穂	遥香	岡英里花	華穂	美貴	1	美貴	友常由貴那
								2	華穂	天津 里奈
								3	華穂	黒沢 夏美
								4	遥香	櫻村 優希
								5	暁穂	岸 尚華
								6	望	藤盛 杏樹
								K	遥	小池 若菜
								M	悠	坂下紗理奈

同窓会あおい会 クラス幹事

(平成28年3月卒業)

同窓会入会式
去る2月29日(月)、同窓会入会式が体育館で行われた。会長挨拶のあと、学校長からお言葉をいただいた。クラス幹事へ委嘱状が渡され、卒業生全員に、記念品を贈呈した。その後、あおい会会則の説明があり、会を終了した。

学校の状況

平成27年度進路状況

今年度の卒業生は、4年制制大学への進学者が224名と過去最高を記録しました。特に例年に比べて難関私立大学への合格者が増加したのが大きな特徴です。立教大学に6名、法政大学に6名、その他津田塾大学、東京女子大学、中央大学等に多数合格しました。

国公立大学は茨城大学に15名、県立医療大学に2名の他、筑波大学、弘前大学、岩手県立大学、信州大学と全国各地の大学に合格を果たしています。また音楽科からは最難関の東京藝術大学に2年連続で合格者が出ています。

短期大学への進学者は、ほとんどが幼児教育系で占め、専門学校は看護・医療系への進学希望者が年々増加してきています。

就職については、公務員は裁判所職員、県職員、市役所職員、民間企業では日本郵便株式会社など雇用情勢が厳しい中、見事進路希望を実現させてくれました。

【国公立大】
筑波・茨城・茨城県立医療・信州・東京藝術・弘前・都留文科他

【私立4大】
立教・津田塾・中央・東京女子・法政・日本・東洋・専修・獨協・明治学院・常磐・茨城キリスト他

【短大】
青山学院女子短大・大妻女子大学短大・共立女子短大・常磐短大他

【専門学校】
水戸医療センター看護・県立中央看護・土浦協同病院看護他

【就職】
日本郵便・レフイユ・茨城県職員・常陸大宮市職員・裁判所職員

26年度の合格者数

国公立大学	23
私立大学	201
短期大学	22
専門学校等	45
就職	7
進学・就職準備	8

2017年 水戸三高同窓会「あおい会」 総会・懇親会のお知らせ

日時 平成29年6月25日(日)
受付 11:00～
総会 11:30～12:00
懇親会 12:00～14:00
会場 大洗シーサイドホテル
電話 029(267)2111
大洗町磯浜町6881(大洗磯前神社下)
会費 6,000円

クラス幹事から「同窓会のお知らせ」が届く事になって

います。参加ご希望の方は、6月2日(金)までにクラス幹事を通してお申込み下さい。同窓会参加について詳しく知りたい方は、事務局へ問い合わせるか、又は「水戸三高ホームページ」あおい会事務局専用メールアドレスをご覧ください。※注意※ 参加申し込み後、都合で出席できなくなった場合は、必ず6月16日(金)までに事務局へご連絡下さい。(連絡なく当日欠席の場合は会費をご送金いただくこととなります。)

今回の同窓会運営、進行に当るクラス幹事は下記の学年です。昭和42年、47、52、57、62、平成4年、9、14、3月の卒業生です。

水戸三高同窓会あおい会事務局

TEL 029-224-2044 FAX 029-225-4524
ホームページ <http://www.mito3-h.ed.jp/>
事務局専用メールアドレス aoikai@mito3-h.ed.jp

校内の事務局員先生方

栗田(照昭) 誉子…英語科 岡本(富田) 庸子…音楽科
宮田(宮田) 桜子…音楽科 深澤(深澤) 昌美…家政科

創立90周年記念同窓会あおい会の「会員名簿」の注文・変更等は事務局まで葉書または電話でご連絡下さい。

平成28年3月 ご退職の先生方	校長 齋藤 文夫先生 教諭 神原 要先生 教諭 川又 健先生 教諭 鈴木 俊江先生
平成28年3月 ご転入の先生方	教頭 青砥 孝子先生(石岡商業へ) 教諭 益子可奈子先生(東海へ) 教諭 浦井 雅之先生(多賀へ) 事務室長 石川 石先生(勝田養護学校へ)
平成28年4月 ご転入の先生方	校長 森田 浩一先生(中央から) 教頭 金田 郁夫先生(銚田二から) 教諭 須藤 惇士先生(新採)

おくやみ
大森喜四郎先生(平成28・5月)
寺内 久江先生(平成28・5月)
小沼 佳子さん(平成28・3月)
(同窓会副会長)

教諭 谷島 直美先生(笠間から)
教諭 増田 美江先生(那珂から)
教諭 林 通子先生(育休から復職)
教諭 中村亜沙美先生(磯原郷英から)
教諭 浦島 方人先生(小瀬から)
事務室長 大和田 稔先生(岩瀬から)
※講師、非常勤講師、再任教諭を除く

編集後記

本校の創立90周年記念と同窓会あおい会の発足60周年を記念してページ増になりました。

「あおい会だより」は、全校生徒、全教職員にもお配りしております。又、毎年総会参加者、旧教職員の方、そしてクラス会など、御要望があった時にも、お届けしています。

何年経っても、大好きな母校への感謝、懐かしさは変わりませぬ。紙面に何かご要望など有りましたら、ご遠慮無く、ご意見をお寄せ下さい。

編集委員 宮田満里子 吉成隆一
小貫早苗 宮田桜子
深澤昌美 (小沼佳子)